



## 心地よい風景の中で暮らしています

田尻地区大貫地区在住・移住歴10年(2008年当時)

まくた あきこ

### 幕田晶子さん(イラストレーター・デザイナー)

(1959-2018)

～愛する蕪栗沼を背景に～

(広報おおさき2008年7月号掲載)

イラストレーターの幕田さんが仙台から田尻大貫地区に移住して十年が経ちます。

幕田さんと田尻との出会いは、デザイン事務所を経てフリーで仕事をしていたときに参加した蕪栗沼の雁を見るツアーでした。第一印象は「空が広いなあ」ということ。初めて訪れた蕪栗沼の自然は、幕田さんのアンテナをくすぐりました。

以前から生活の場を移動したい、自然のあるところに住みたいと思っていたこともあり、いい風景といい人たちとの出会いも重なり「ヒタッとくくるものがあつた」のだそうです。直感的にここに住みたいと思い、自然の豊かさとの魅力に誘われ、田尻地域大貫地区に越してくることになりました。

それまで環境保護活動とは関わりがなかったという幕田さんですが、蕪栗沼の自然や保護活動に取り組む人たちと出会い、話を聞くうちに、関心を持つようになります。「都市と自然、両方のパフスガとれて保たれているんだと思う。こっちに来てから強くそう思うようになった」と話します。

NPO法人「蕪栗ぬまっこくらぶ」には立ち上げから参加し、現在もメンバーとして活動しています。これまで、くらぶで発行した環境絵本やステッカー、環境省や教育機関などの環境教育に関する出版物などを手がけました。

その作品からは、優しくも楽しく、温かさ、懐かしさなど、なんさんのことが感じられます。住んでいる場所の

環境が、作品づくりにとても影響しているのだそうです。

未来のことを考えて自然と共生している大貫地区は幕田さんにとって居心地のよい場所です。そして、地域のコミュニティが生きていて、そこに住む人たちがとても魅力的だと言います。

今年から大貫地区の地域づくり委員会「大貫かんぼやま委員会」のメンバーにもなりました。「ここに住んでいる以上何か地域の役に立てたらいいなと思って」と話します。

鳥のいる風景が好きだという幕田さん。「大好きな風景の中にあることが気持ちいい」。ここは自然の力を強く感じる場所。風がいい、鳥の声がいい、花がきれい、そういうささやかな自然の美しさを、素直に楽しめる場所だと言います。

好奇心のアンテナを巡らせながら、幕田さんはここで、自然を感じる生活を楽しくしています。



▲幕田さんが手がけた蕪栗ぬまっこくらぶや環境教育に関する出版物。幕田さんの作品は見る人に好奇心の芽を植えつけます。

まく た あき こ

# 幕田晶子 回顧展

(1959 - 2018)

～心地よい風景の中で～

と き：2019年7月9日～27日（平日 9時～19時）

ところ：宮城県田尻さくら高校さくらギャラリー

入場無料